

町長室からのメッセージ

No.111



一宮町長
馬淵 昌也

今年も9月13日に、上総十二社祭りが盛大に行われました。今年は、わたくしもお神輿を担ぐチームに加わろうと思つていましたが、大事なお客様が見えたので、昨年同様観客の方に回らせていただきました。

お祭りのあと、一宮幹部交番の仲村所長から伺つたのですが、県内各所で多くのお祭りの警備などに当たつた経験を踏まえていうと、上総十二社祭りは、別格の品位を備えた祭りで、ほかのところとは全然違うということでした。まず、お祭りに大勢の女性の方々や子どもさんが参加しておられ、お祭りの中枢にまで関与している形が、ほかと全然違つて優れている、と言つておられました。ほかでは、ほぼ男性だけが仕切つていて、女性や子どもの参加は少ないし周辺部に限られるというのです。お祭りがみんなのものになつていいということが、まずよい点だとついていた。また、男性の方々の振る舞いも、大いに盛り上がつていて、羽目を外すまではいつないところも素晴らしいというお話をしました。ほかのところでは、酒の飲みすぎと暴力沙汰などがつきものだそうです。

一宮町の先輩方に伺つてみると、十二社も7月の天王マチも、かつては酒のがぶ飲みや喧嘩は茶飯事だったということです。しかし、確かに近年、一宮町のお祭りではそうした混亂や騒動は見かけません。仲村所長は、女性や子どもの参加が多くなつて、男性も自制するようになつたのだろうと言つておられましたが、参加者のみんなが喜びを最大にするのがお祭りの極意なら、暴力沙汰より笑顔の応酬で盛り上がるほうがよいに決まっています。そういう意味では、一宮町のお祭りはよい方向にアップデートされてきているといえましょう。

今年は、玉前様も南宮様も、お神輿の担ぎ手の門戸を広く開いて、希望される方はどうぞご参加ください、という広報をされました。これも、神社のお祭りは氏子だけのものという、従来の日本のお祭りの形態から、地域のみんなが参加できる共有の行事に衣替えしてゆこうという動きとどちらえることができます。

一宮町にとつて、町の結集力を確認する大事な行事がお祭りです。これからも続けて、良い方向へ進んでゆくことを期待したいと思います。